

静岡市駿河区の長田西自治会連合会は、スマートフォンを活用した高齢者の身元確認サービスを月末から始める。外出先で体調不良になったり、認知症で徘徊(はいかい)したりしている高齢者を発見した人が、自身のスマホを使って迅速な身元特定や救護に役立てることができる。同連合会は住民だけでなく、地域に関係する企業や団体にも周知し、安心安全なまちづくりを進める。(社会部・鈴木明芽)

高齢者身元確認 バッジ、スマホで

静岡・長田西自治会連

「外出安全に」 月末サービス開始

ソフトウェアの開発 がる情報を確認できる 役員や民生委員らあらの高齢者100人にパ
運用支援を全国展開 仕組み。スマホがなく じめ登録した「見守
する「電翔」(同市葵 ても、バッジに記され り隊」のメンバーは
区)が開発したサービ たコールセンターに連 パスワードを入力する
ス「スマ救」を利用す 絡して対応を求めるこ ことでより詳しい情報
る。高齢者に利用者基 ともできる。 が得られる。同連合会
号が登録されたバッジ 個人情報保護のた は地域の関係機関にも
を帽子や服に付けても め、情報の開示には制 登録を呼び掛けている
らい、緊急時に発見者 限がある。通常は本人 て、静岡中央新聞販売
が読み取り機能がある の顔写真やあだ名、コ などが協力を申し出て
スマホをバッジにかざ ールセンターの連絡先 いるという。
せば、身元特定につな などだったが、自治会 当面は長田西地区
ソフトウエアの開発 がる情報を確認できる 役員や民生委員らあらの高齢者100人にパ
運用支援を全国展開 仕組み。スマホがなく じめ登録した「見守
する「電翔」(同市葵 ても、バッジに記され り隊」のメンバーは
区)が開発したサービ たコールセンターに連 パスワードを入力する
ス「スマ救」を利用す 絡して対応を求めるこ ことでより詳しい情報
る。高齢者に利用者基 ともできる。 が得られる。同連合会
号が登録されたバッジ 個人情報保護のた は地域の関係機関にも
を帽子や服に付けても め、情報の開示には制 登録を呼び掛けている
らい、緊急時に発見者 限がある。通常は本人 て、静岡中央新聞販売
が読み取り機能がある の顔写真やあだ名、コ などが協力を申し出て
スマホをバッジにかざ ールセンターの連絡先 いるという。
せば、身元特定につな などだったが、自治会 当面は長田西地区



高齢者が携帯するバッジ(左)をスマートフォンにかざすと身元特定につながる情報が表示される=8日、静岡市駿河区

認知症で徘徊、保護 県内増加

県警生活安全課によると、2015年に県警が保護した認知症とみられる高齢者は約1900人になる。年々増加傾向があり、対策が喫緊の課題となっている。
行方不明者発見のため多くの自治体では防災行政無線(同報無線)で協力を呼び掛けるほか、防災情報などのメール配信サービスを活用している。
いまいの恐れのある高齢者に登録番号を記したシールを靴などに貼ってもらい、身元特定につながる「オレンジシール事業」を始めた。これまでにシールを交付したのは272人。高齢者が行方不明になった場合のメール配信も行い、約900人がメール登録している。
浜松市は16年6月から、徘徊(はいかい)の恐れのある高齢者に登録番号を記したシールを靴などに貼ってもらい、身元特定につながる「オレンジシール事業」を始めた。これまでにシールを交付したのは272人。高齢者が行方不明になった場合のメール配信も行い、約900人がメール登録している。